

写真投影法による陶芸の里の表象分析と評価

山下三平¹・丸谷耕太²・内山忠³・栗田融⁴

¹正会員 工博 九州産業大学工学部都市基盤デザイン工学科（〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1, E-mail: samp@ip.kyusan-u.ac.jp）

²工博 立教大学観光学部観光学科（〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26, E-mail: maruya@rikkyo.ac.jp）

³正会員 工博 九州産業大学景観研究センター（〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1, E-mail: u.tadasi@ip.kyusan-u.ac.jp）

⁴芸博 九州産業大学芸術学部デザイン学科（〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1, E-mail: kurita@ip.kyusan-u.ac.jp）

本研究は陶芸の里である福岡県朝倉郡東峰村小石原皿山地区を対象とし、窯元とその家族の目とを通して、地域の文化的景観の表象とそれに対する評価の把握を試みた。その結果、地域サイン計画、宗教に関わる事物の活用、煙突と唐臼の位置づけ、皿山の場所的価値および山水の再生が重要であることが示された。また、世代間・居住開始年代間での、景観表象とその生成過程について認識の共有が、より創造的でバランスのとれた文化的景観の保全に役立つと示唆された。

キーワード: 文化的景観, 伝統的工芸品, 景観評価, 中山間地域

1. はじめに

文化的景観は生きた景観であり、表象だけでなくその形成作用が重要である。人々の生活は自然とともにあり、自然への働きかけ方が、文化と景観の質を決定する。

近代科学文明は物質的豊かさと引き換えに大規模自然破壊をもたらした。一方、伝統的文化は場所への拘束という負荷を伴いつつ、地域が自然と折り合いをつけることで形成された。前者は感覚できる物とくに可視化によって検証されるものを偏重する。これに対し後者は、感覚・可視化のできない、エトスの創造的継承を重視する。それゆえ現代において文化的景観を扱うことは、視覚的な側面である景観表象だけでなく、非視覚的な人々の営みの把握を、必然的に伴わなければならない。地域振興の資源として、文化的景観を活用することが注目されている。そのためには、表象とその形成作用の双方を、的確に把握する必要がある。

2004年の文化財保護法改訂・公布以降、文化的景観に関する研究と実務が盛んである。多くは、第一次産業と結びついたものであり、第二次、第三次産業に関連するものは少ない¹⁾³⁾。研究対象としては、棚田⁴⁾⁸⁾、段々畑・茶畑・果樹園⁹⁾¹³⁾、水路⁵⁾⁷⁾¹⁴⁾¹⁸⁾、道¹⁹⁾²⁰⁾、神社・寺院²¹⁾²³⁾、放牧地²⁴⁾²⁵⁾、屋敷林・海岸林・桜樹林²⁶⁾²⁸⁾などの個別要素、町並み¹⁴⁾¹⁸⁾²⁹⁾³¹⁾、農山漁村集落³⁷⁾¹⁰⁾¹²⁾¹⁵⁾²⁶⁾³²⁾⁴⁰⁾、里山²⁸⁾⁴²⁾、

森林¹⁹⁾⁴³⁾、流域⁴⁴⁾などの中・広域空間構造、敷地単位の小規模空間構造¹⁷⁾³⁶⁾⁴¹⁾など多様である。また、景観保全の経済的側面²¹⁾³⁰⁾や制度面⁴⁶⁾¹³⁾¹⁷⁾²⁹⁾³²⁾⁴⁵⁾⁴⁶⁾など、主として社会科学的観点から景観の形成・維持の側面を扱うものも見られる。しかしこれらにおいては、多くの場合、人々の日常体験・認識としての景観表象が、必ずしもそれとして直接的に把握されているわけではない。

ところで北部九州では、とくに17世紀以降、窯業が盛んに行われてきた。窯業・作陶に関わる文化的景観には、大分県日田市の小鹿田焼の里のように、「重要文化的景観」として文化財に選定されたものがある¹⁾。小鹿田においては当初の伝統技法とそれを支える資源や道具が、現在まで大きく変容することなく継承されている。その一方、新しい技法や材料・燃料を取り入れつつ、同時に伝統の継承を試みる地域がある。このような地域では、文化的景観の変容の許容が大きな課題である³⁾⁴⁸⁾。

本稿では福岡県朝倉郡東峰村に位置する小石原焼の里の文化的景観を扱う。ここは重要文化的景観である小鹿田焼の里の起源であるが、小鹿田焼と異なり、近代化を比較的大きく受容しながら伝統技法の継承を模索している⁴⁷⁾。その窯元の目とをとおし、文化的景観の表象の特徴を把握する。また同時に、景観表象に対する窯元の意識を、時間の経過を考慮しつつ探ることで、景観形成の作

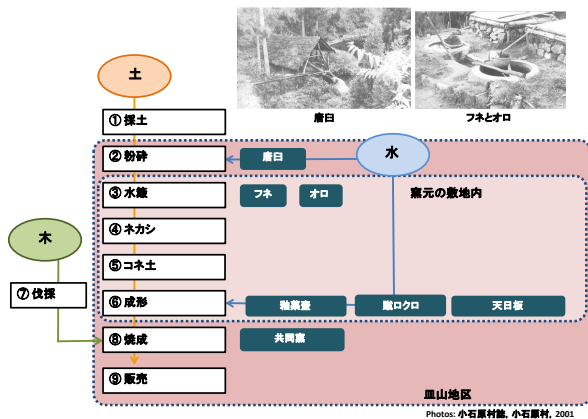


図-1 伝統的な工程と自然資源利用³⁾⁴⁷⁾。

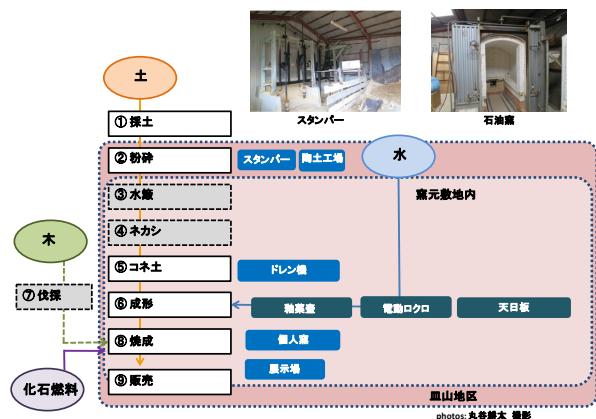


図-2 現代の工程と自然資源利用³⁾。

用面を追究することを研究の目的とする。

2. 方法

(1) 調査対象

対象地域は福岡県朝倉郡東峰村（人口：2,199人 面積：51.9 km²）の小石原皿山地区である。この地区は17世紀後半に確立された小石原焼の中心地である。地区内を大肥川が流れ、かつてはここに、20基ほどの唐臼(陶土精製装置)が並び、独特の景観を構成していた。また水簾のためのフネやオロ、登窯と燃料の薪積みも特徴的な景観要素であった(図-1)³⁾⁴⁷⁾。いまま皿山地区の入り口には、役行者に所縁の行者杉の林が聳え、ここに幽玄の趣を加味している。

小石原焼は、20世紀初頭の民芸運動の広がりとともに、1950年代以降、当初の9軒から窯元数が急速に増え、現在は44軒が陶器協同組合に加盟している。この間に皿山地区から国道(211, 500号線)に沿って窯元の配置が拡大した。また生産の拡大に伴って、燃料と材料を地域外から取り入れるようになった。陶土精製用の唐臼は姿を消した。窯の主流も登窯から石炭窯、ガス釜に変化した。こうして小石原の景観は変容して行った(図-2)³⁾。

なお、小石原から分かれて日田で開窯した小鹿田焼の里は、当初の10軒で現在に至り、技法、燃料および材料が守られている。唐臼、水簾および登窯がいまだに活躍しており、2008年に重要文化的景観に選定された¹⁾。しかしこれはむしろ、北部九州の窯業の里としては特殊であり、多くは小石原のように伝統と近代化の狭間にある。

(2) 調査方法

調査は写真投影法により行った⁴⁹⁾。この方法は1980年代後半に、比較文化精神医学の野田正彰により紹介され、環境世界の投影的分析法として広く知られ、用いられるようになった。被験者に生活世界の写真を撮らせ、それを読み解くことにより、被験者のおかれている生活世界と、その映像・表象に投影される被験者の心的世界を、

表-1 皿山住民の被験者属性

性別		出身地			
男	女	小石原	小石原外		
35%	62%	54%	31%		
年代					
10代	20代	30代	40代	50代以上	
12%	8%	15%	27%	35%	
居住開始年代					
1950年代以前	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代以後
12%	8%	8%	31%	23%	15%
*不明は省く					

*不明は省く

表-2 皿山訪問者の被験者属性

性別		来訪回数	
男	女	初めて	2回以上
50%	50%	40%	60%
年代			
50代	60代	70代	80代
10%	60%	20%	10%

同時に分析することができる。

なお、写真投影法は、景観認識における調査主体の主観をできるだけ排して、被験者の見方を直接把握する手法として河川環境⁵⁰⁾⁵⁵⁾、都市空間・公園⁵⁶⁾⁵⁸⁾、森林・草地⁶⁰⁾⁶³⁾、農村地域⁶⁴⁾⁶⁶⁾など、様々な対象・地域で適用されている。本来「(写真)投影法(Photo-)Projective Method」として、被験者の属性を重視すべきであるが、必ずしもそのような配慮をせず、訪問者を主たる被験者とするケースも多い。それらはむしろ Chenoweth のいわゆる“Visitor-Employed Photography”に分類すべきであろう⁶⁷⁾。

本稿では皿山地区の窯元とその家族にデジタルカメラを1週間ほど貸し出し、生活世界の撮影を依頼した。また記録用紙も配布して、撮影ごとに撮影対象とその意図・評価を自由記述で記録してもらった。その時の教示は以下のとおりである。

「50枚を目安に、小石原皿山(とその周辺)らしい風景・景観の写真を撮ってください。お宅の敷地内でもかまいません。その都度、なにを撮影し、どのように思った(っている)かを用紙に書いて、風景・景観への思いを記録してください。好き嫌い、良い悪いなどなんでもけっこうです」

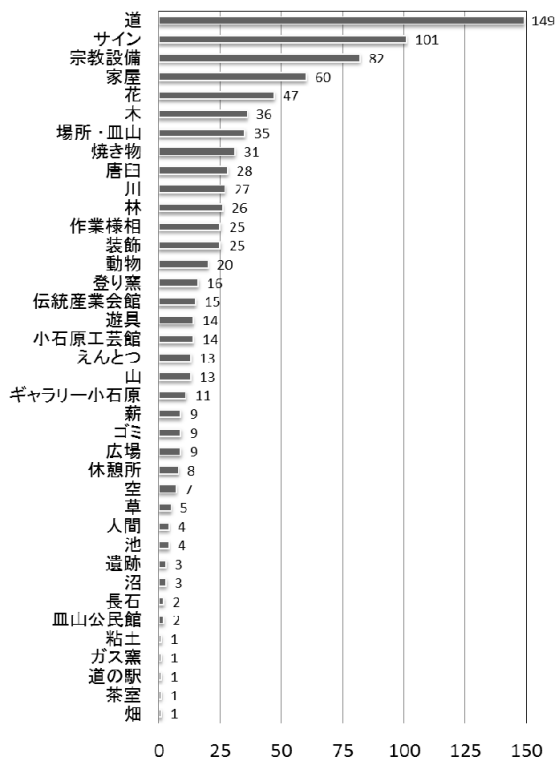


図-3 主対象の頻度。

調査期間は2013年3月4日～11日であった。30名に依頼して、26名から有効な回答を得ることができた。得られた映像は858件であった。回答者の属性の構成は表-1のとおりである。

また、皿山への来訪者の見方を参照するために、2013年7月13日に、バスツアーの団体客10名に対し、同様の方法で、対象地域の撮影・記録を依頼した。得られた映像は597件であった。来訪回答者の属性の構成を表-2に示す。

(3) 分析方法

得られた映像と回答者の記録に基づいて、撮影対象を38種の主対象に分類した。この分類には3名の分析者がそれぞれ当り、その後、協議により最終分類を決定した。回答者の記録は評価という観点から、「肯定的」、「否定的」および「評価なし」に3分類した。この際も、主対象の分類と同じ手順を踏襲した。

本稿では1)主対象、2)評価、および3)主対象・評価と属性との関係を検討する。なお3)は景観と意識の変容と関連する属性として、時間属性である世代と居住開始年代を扱う。

3. 主対象と評価の傾向

(1) 主対象

「道(149件)」を主対象とした映像が最も多く、次が「サイン(101件)」である(図-3)。人の移動・誘導に関わる事物に関心が高いことがわかる。これらに比

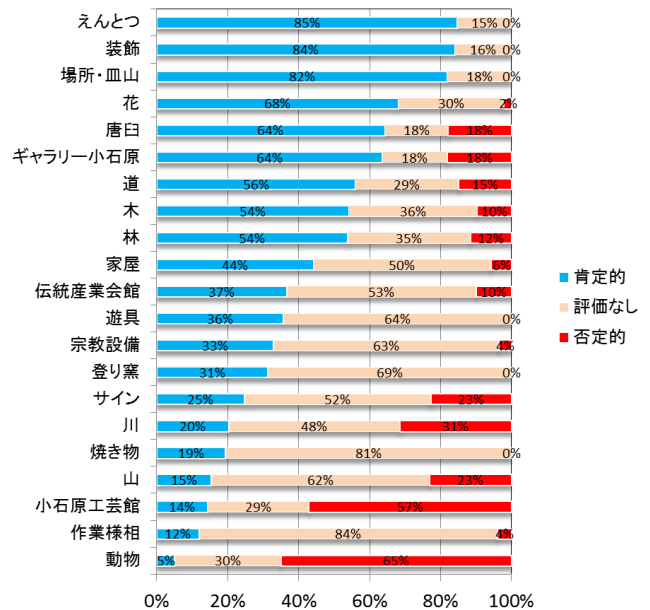


図-4 おもな主対象(10件以上)の評価の構成。

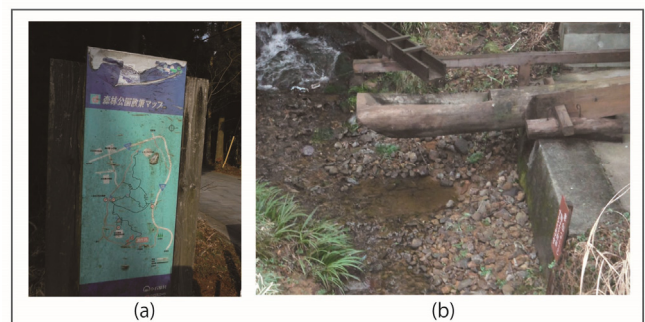


図-5 回答者の写真。(a) 主対象：サイン、評価：否定的、記録：「マップを見ただけで、散歩しようという気分がなくなる」。(b) 主対象：唐臼、評価：肯定的、記録：「オモシロイ」。

べて焼き物の里の特徴的な景観要素と思われる「唐臼(28件)」,「登り窯(16件)」,「えんとつ(13件)」,「薪(9件)」等を主対象とする映像は少ない。窯業の里の景観を成り立たせる働き・作業を示す「作業様相(25件)」も同様である。窯元の生業・生活に特に身近な要素は、比較的意識されにくいと考えられる。

修験道に関わる事物を含む「宗教設備(82件)」は3番目に多く、4番目の窯元の「家屋(60件)」より多い。小石原皿山の人びとにとって、「宗教設備」が重要であることがわかる⁽⁶⁾。

自然的な事物である「花(47件)」,「木(36件)」,「川(27件)」,「林(26件)」,「動物(20件)」,「山(13件)」,「草(5件)」等の総数(174件)は1位の「道」を上回り、自然への関心の高さも現れている。

皿山の共有の場としての景観を表す「場所・皿山(35件)」の撮影が7番目である。また、個別の共有施設である「伝統産業会館(15件)」,「小石原工芸館(14

件)」、「ギャラリー小石原(11件)」等が主対象としてそれなりの数で取り上げられている。共有の場所についての関心の現れと考えられる。

(2) 評価

図-4は主対象の件数が10件以上のものについて、評価の内訳を示したものである。

主対象として最も頻度が高かった「道」は肯定的評価が過半数である(56%)。しかし「サイン」は肯定が25%と少ない。後者に対して皿山の人びとが必ずしも満足していないことがわかる(図-5(a))。

陶芸の里に特有と考えられる景観要素の中で、「えんとつ」と「唐臼」はそれぞれ、85%と64%と肯定的な評価が極めて多く特徴的である(図-5(b))。一方、「登り窯」と「作業様相」は15%と12%が肯定的で、ほとんどは評価をしていない(それぞれ69%と84%)。なお、「唐臼」は現在観光用が一基あるだけである。

共有の場所や施設に関わる事物の中で、「場所・皿山」の肯定的評価が82%と極めて高い。また「ギャラリー小石原」の肯定的評価は64%と過半数だが、「伝統産業会館」は37%となり、「小石原工芸館」は過半数の57%が否定的である。とくに「小石原工芸館」の改善が望まれていることがわかる。

自然事物の中で、「花」、「木」および「林」は肯定的評価がそれぞれ68%、54%および54%で過半数である。しかし「川」は肯定が20%で否定が31%、「山」は肯定が15%で否定が23%である。陶芸の里の骨格というべき山と川の評価が比較的低いのは興味深い。回答者の記録には「山」には「もう少し手入れをしなければ」、「川」には「...石がき復元を望む...」といった記載が見られる。里山・里川の変容が意識されていることがわかる。また、「動物」は65%が否定的評価である。回答者の記録には「...この鹿の為、自宅庭の花、木の芽など食べられて困っている...」等の記載があり、鹿の食害の増加が反映している。

(3) 来訪者の見方

図-6と図-7はそれぞれ来訪者の主対象と評価を、上述と同様に整理したものである。

主対象については「焼き物(74件)」、「家屋(49件)」、「場所・皿山(45件)」、「装飾(29件)」、「サイン(24件)」の順に多い(図-6)。まずは訪問目的である焼き物が一番多く、続いてそれを取り巻く環境に注目が移る様子が垣間見える。上述の、誘導、宗教および自然に対する住民の関心の高さとの違いが興味深い。

評価については、肯定的評価が過半数になるものは「薪(67%)」、「唐臼(65%)」および「焼き物

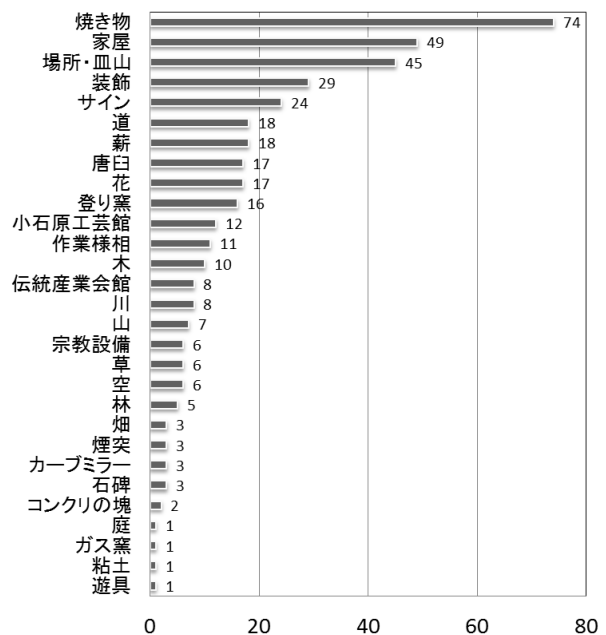


図-6 主対象の頻度(来訪者)。

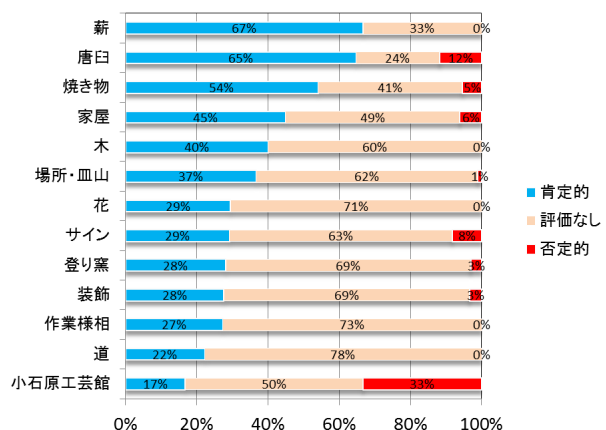


図-7 おもな主対象(10件以上)の評価の構成(来訪者)。

(54%)」である(図-7)。焼き物の評価が高いのは訪問目的からして自明である。唐臼は住民と共通の評価が表れている。しかし、薪については住民の評価意識には多く上らず、住民の気づかない景観資源となる可能性が示唆される。

4. 時間属性との関係

ここではとくに景観の変容に関連する時間属性として、世代と居住開始年代を取り上げて、それらと主対象ならびに評価との関係を検討する。世代は壮年期の40歳代未満と以上、居住開始年代はバブル経済期の1980年代の前とそれ以後の2グループに分ける。そのうえで、グループ間で有意な差があった主対象ならびに評価の項目を示したものが、図-8~9である。

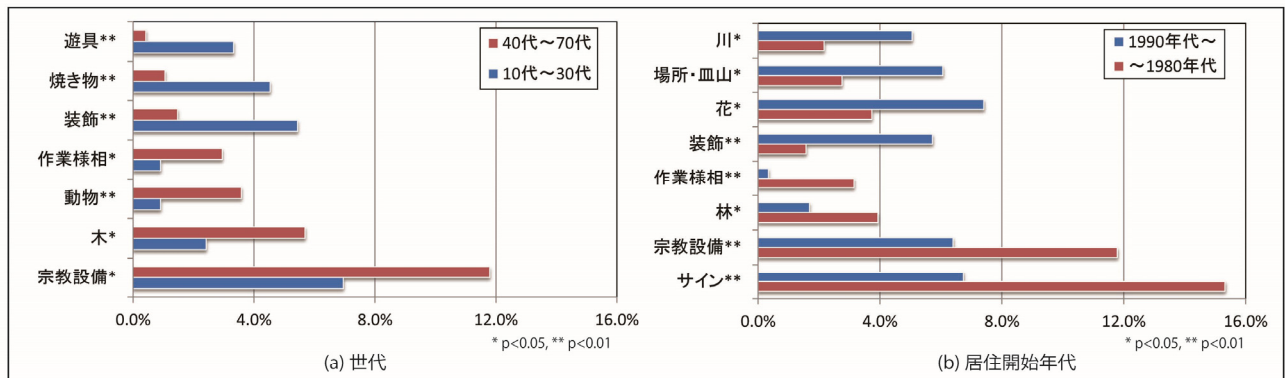


図-8 主対象と時間属性との関係

(1) 主対象

世代に関しては、「宗教設備」、「木」、「動物」および「作業様相」は40歳代以上、「装飾」、「焼き物」および「遊具」は40歳代未満が多い(図-8(a))。高齢層は景観の背後の要因に注目し、若年層は即物的な応答をしていることがわかる。

居住開始年代については、「川」、「場所・皿山」、「花」および「装飾」で1990年代以後、「作業様相」、「林」、「宗教設備」および「サイン」で1980年代以前の頻度が有意に高い(図-8(b))。比較的新しい居住者は、この地の景観を彩る装飾や花に注目し、川の使用をより意識していることがわかる。皿山という場所の意識も高い。その一方、より古くから皿山に居住する人は、宗教設備や林(行者杉の林)など、古い修験道と関わる事物への関心が高い⁽⁶⁾。また、景観の作用面に関わる作業様相への注目も高く、陶芸の里としての重要な要因への関心が明瞭である。さらに、皿山に人を誘導するのに重要な、サインへの関心もとくに高いことがわかる。

以上から、比較的若くより新しい居住者は、皿山の景観の表象面に注目し、比較的高齢でより古い居住者は景観の生成・作用面に注目する傾向があると考えられる。

(2) 評価

まず世代や居住開始年代に関わらず、肯定的な評価が否定を大きく上回っていることに注目したい(図-9)。そのうえで世代間については、40歳代以上の比較的高齢の世代は、否定的評価が有意に多い(図-9(a))。また居住開始年代についてみると、1980年代以前からの居住者は、肯定的な評価が多く、否定的または評価なしの割合が高い(図-9(b))。比較的若く、新しく居住してきた世代は、地域の高齢化や社会の経済状況にもかかわらず、より肯定的なものの見方をする傾向があることがわかる。

5. おわりに

本研究は陶芸の里である福岡県朝倉郡東峰村小石原皿山地区を対象とし、写真投影法を用いて、窯元とその家

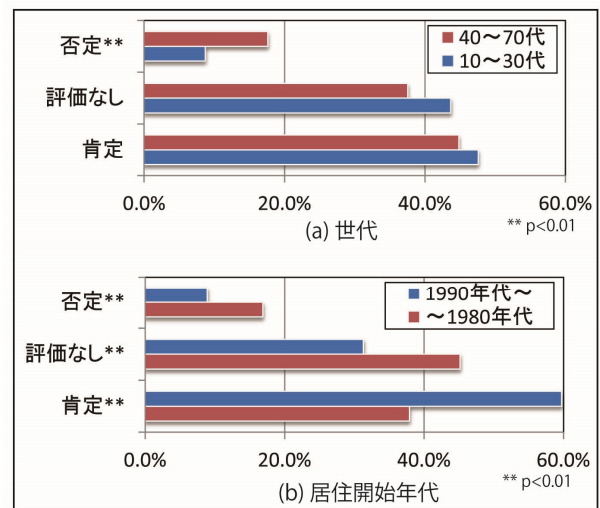


図-9 評価と時間属性との関係

族の目を通した皿山の文化的景観の表象分析とそれに対する意識の把握を試みた。そのおもな結果を示せば以下のようになる。

- 1) 人々の移動を助け導く施設、修験道・宗教に関わる事物、自然物および共有の場所・施設への注目度が一般に高い。
- 2) サイン設備への注目度は高いが評価は高くない。
- 3) 陶芸の里の文化的景観の要素として、煙突と唐臼への期待が大きい。
- 4) 共有の場所としての皿山の評価が高い。一方、共有の小石原工芸館の利用に課題が見られる。
- 5) 景観の骨格である山と川の評価が比較的低い。
- 6) 比較的若くより新しい居住者は、皿山の景観の表象面に注目し、比較的高齢でより古い居住者は景観の生成・作用面に注目する傾向がある。
- 7) 世代や居住開始年代に関わらず、肯定的な評価が否定的な評価を大きく上回る。
- 8) 比較的若く、新しく居住してきた世代は、より肯定的なものの見方をする傾向がある。
- 9) 来訪者は焼き物そのものへの関心を軸として、これを取り巻く環境へと注目度が移行すると考えられる。

以上から、地域サイン計画、宗教に関わる事物の活用、煙突と唐臼の位置づけ、皿山の場所的価値および山水の再生が重要である。また、世代間・居住開始年代間での、景観表象とその生成過程の価値についての共有が、より創造的でバランスのとれた文化的景観の保全に役立つものと示唆される。これらに来訪者の見方を加えることで、本地域の文化と景観の保全に新たな貢献ができるものと期待される。

謝辞： 本研究の遂行には小石原地区の窯元とその家族の方々に大変お世話になった。ここに記して感謝の意を表したい。本研究は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「北部九州の窯業に着目した文化的景観の形成と保全に関する研究」(No.S1203007)の助成を受けて実施された。併せて謝意を表す次第である。

参考文献

- 1) 山口知恵・松本将一郎・西山徳明: 小鹿田焼の里皿山における伝統的な生業の持続と文化的景観の保全に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, pp.2215-2222, 74(644), 2009.
- 2) 丸谷耕太・土肥真人・杉田早苗: 大館曲げわっぱにみる伝統工芸と文化的景観に関する研究, ランドスケープ研究, pp.411-414, 75(5), 2012.
- 3) 丸谷耕太・山下三平・内山忠・小川勇樹: 小石原焼の里における作陶に関わる文化的景観の変容に関する研究, 都市計画学会論文集, pp.83-92, 49(1), 2014.
- 4) 相田明: 岐阜県恵那市坂折棚田における文化的景観の保全活動史, ランドスケープ研究, pp.409-4714, 74(5), 2011.
- 5) 天満類子・菊池成朋: 限上川流域の棚田景観と水利システム: 新川・田筆地区の山村景観保全に関する研究その1, 日本建築学会計画系論文集, pp.805-811, 77(674), 2012.
- 6) 菊池淑人: 「世界遺産」の棚田をめぐる国際的・国内的保護の変遷: フィリピン・イフガオの棚田と伝統的文化空間の保護に関する研究その1, 日本建築学会計画系論文集, pp.2265-2270, 77(679), 2012.
- 7) 天満類子・菊池成朋: 山村集落における水系システムと屋敷立地: 新川・田筆地区の山村景観保全に関する研究その2, 日本建築学会計画系論文集, pp.1793-1798, 78(690), 2013.
- 8) 横関隆登・小野良平・伊東弘・下村彰男: 新潟県十日町市松之山地区にみる棚田景観地の景観構造に関する研究, ランドスケープ研究, pp.583-586, 76(5), 2013.
- 9) 井原緑: 瀬戸内海地域における「花の景観」づくりの文化的価値に関する史的考察, ランドスケープ研究, pp.483-486, 71(5), 2008.
- 10) 奥敬一・深町加津枝・三好岩生・堀内美緒: 大井川中流域の茶園卓越景観における日中の来訪者による景観認識比較, ランドスケープ研究, pp.657-660, 72(5), 2009.
- 11) 安楽あてね・後藤春彦・佐藤宏亮: 集落域での耕作範囲の縮減過程における文化的景観のマネジメントに関する研究: 果樹産地である愛媛県明浜町狩浜地区を対象として, 日本建築学会計画系論文集, pp.2147-2156, 75(655), 2010.
- 12) 木村真也・村上修一: 中山間地域における沿道の茶園景観の特徴に関する研究, ランドスケープ研究, pp.661-666, 75(5), 2012.
- 13) 鳥海基樹・斎藤英俊・平賀あまな: フランスに於けるワイン用葡萄畑の景観保全に関する研究: 一般的実態の整理とサン・テミリオン管轄区の事例分析, 日本建築学会計画系論文集, pp.643-652, 78(685), 2013.
- 14) 住吉徹・包清博之: 柳川市の水郷景観保全のための計画区域に関する基礎的研究, ランドスケープ研究, pp.601-604, 70(5), 2007.
- 15) 豊島久乃・斎藤英俊: 水環境への適応とその持続的活用形態からみた山村集落の文化的景観評価: 岐阜県大野郡白川村荻町合掌造り集落の例, 日本建築学会計画系論文集, pp.1905-1910, 74(642), 2009.
- 16) 牧寛・石川幹子: 旧三田用水が形成した文化的景観の歴史的変遷に関する研究, 都市計画論文集, pp.397-402, 45(3), 2010.
- 17) 古賀由美子・田中尚人・永村景子・本田泰寛: 潤滑用水の維持管理の変遷とその実態の明示, 土木史研究論文集, pp.49-58, 29, 2010.
- 18) 沢一馬・山口敬太・久保田善明・川崎雅史: 水郷集落における文化的景観の持続性: 伊庭における水路網の復元と水利用の変容, 土木学会論文集D1, pp.42-53, 69(1), 2013.
- 19) 藤代直希・松下幸司: 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」における文化的景観と林業: 熊野古道・中辺路ルートを事例に, 森林研究, pp.1-10, 78, 2012.
- 20) 山口敬太: 近代における奈良・山辺の道の形成とその背景, ランドスケープ研究(オンライン論文集), pp.25-32, 6, 2013.
- 21) 氏家清和・垣内恵美子・奥山忠裕: 文化的景観の経済波及効果: 広島県宮島における観光客調査, 都市計画論文集, pp.49-56, 41(2), 2006.
- 22) ティティン・ファティマ, 神吉紀世子: インドネシア・ボロブドゥール区レベルにおける文化的景観保全イニシアチブのための市民組織間関係に関する研究, 都市計画論文集, pp.205-210, 44(3), 2009.
- 23) ティンティン・ファティマ, 神吉紀世子: インドネシア・ボロブドゥール区におけるルール・ツーリズム・イニシアチブの評価: 文化的景観を保全に向けたルール・ツーリズム活動に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, pp.563-572, 77(673), 2012.
- 24) 宮本万理子・横張真・保科宇秀: 牧の払い下げ形式にもとづく下総台地における景観の特徴解明, ランドスケープ研究, pp.673-678, 74(5), 2011.
- 25) 宮本万理子・横張真・渡辺貴史: 土地履歴の解釈にもとづ

- く文化財としての文化的景観の捉え方の検討, ランドスケープ研究, pp.597-600, 75(5), 2012.
- 26) 宮脇勝・深谷正則: 千葉県域の利根川水系における水塚及び屋敷林の文化的景観に関する研究: 栄町, 本埜村, 印西市, 我孫子市, 柏市, 白井市の水塚と屋敷林のタイプ分類, 保存状態, 所有者意識, 都市計画論文集, pp.673-678, 43(3), 2008.
- 27) 石川幹子・大和広明・大澤啓志: 東北地方太平洋沖地震津波による海岸林の被災分析と文化的景観の特質に関する研究, 都市計画論文集, pp.1005-1010, 48(3), 2013.
- 28) 東口涼・今西純一・飯田義彦・森本幸裕: 奈良県吉野山の土地利用の変遷と旅行雑誌から見た景観受容の変化, ランドスケープ研究, pp.601-604, 76(5), 2013.
- 29) 大森洋子・高口愛・西山徳明: 文化的景観条例による町並み保存と景観形成の手法: 福岡県八女市における事例報告, 都市計画論文集, pp.565-570, 38(3), 2003.
- 30) 岩本博幸・垣内恵美子・氏家清和: CVMを用いた伝統的建造物群保存地区の文化的景観の経済評価: 高山市における事例研究, 都市計画論文集, pp.18-24, 41(2), 2006.
- 31) 飯田晶子・石川幹子: 幕末・明治期の横浜旧居留地・外国人遊歩道における文化的景観に関する研究: 「横浜写真」・「横浜絵葉書」を用いた景観分析を通して, 都市計画論文集, pp.541-546, 43(3), 2008.
- 32) マテオ・ダリオ・パオルッチ, 宮脇勝: 群馬県山村集落六合赤松地区における文化的景観に関する研究: 歴史的な絵図, 地籍図, 土地台帳を用いた農地のランドスケープの歴史の変遷分析, 都市計画論文集, pp.817-822, 40(3), 2005.
- 33) イシザワ・マヤ: アンデスの文化的景観の保存と再生に関する研究: オヤンタイタンボを事例として, 都市計画論文集, pp.523-528, 43(3), 2008.
- 34) イシザワ・マヤ, 石川幹子, 福井弘道: アンデス農村地域の文化的景観の変容: ペルー共和国インカの聖なる谷のチンチェロ村を事例として, 都市計画論文集, pp.427-432, 44(3), 2009.
- 35) 南里美緒・横張真・落合基継: 近江八幡の水郷景観におけるヨシ原の変遷とその文化的景観としての保全策 ランドスケープ研究, pp.731-734, 72(5), 2009.
- 36) 飯田晶子・野口翠・大澤啓志・石川幹子: ミクロネシア島嶼パラオ共和国における集落の文化的景観に関する研究: パベルダオブ島アイライ集落を事例に, 都市計画論文集, pp.97-102, 45(3), 2010.
- 37) 石鼎・石川幹子・片桐由希子: 1910年代以降の観光事業が中国杭州西湖風景名勝区の文化的景観に与えた影響に関する研究, 都市計画論文集, pp.619-624, 46(3), 2011.
- 38) 石鼎・石川幹子: 中国四川省都江堰市のグリーンベルトにおける農村地域の文化的景観に関する研究, 都市計画論文集, pp.1009-1014, 47(3), 2012.
- 39) 本多秀行・荒井歩: 石川県輪島市大沢の生活地名と空間構造の関係: ランドスケープ研究, pp.605-608, 75(5), 2012.
- 40) 森朋子: 大字単位から見た五箇山の文化的景観の深層構造: 世界遺産相倉・菅沼集落と周辺山村集落の文化的景観の保全に関する研究, 都市計画論文集, pp.579-584, 48(3), 2013.
- 41) 山口知恵・大森洋子・西山徳明: 鹿児島県奄美市赤木名における生業と空間構成, 日本建築学会計画系論文集, pp.1579-1587, 78(689), 2013.
- 42) 松島洋介・奥敬一・深町加津枝・堀内美緒・森本幸裕: 琵琶湖西岸の里山地域における身元住民と移入住民の景観認識の比較, ランドスケープ研究, pp.741-746, 71(5), 2008.
- 43) 黒田乃生: 日本の世界文化遺産における森林の現状に関する考察, ランドスケープ研究, pp.645-650, 72(5), 2009.
- 44) 恵谷浩子: 四万十川流域における広域の文化的景観の捉え方, 流域圏学会誌, pp.13-18, 1(1), 2012.
- 45) 今村洋一・大島夕起・岡崎篤行: 重要文化的景観制度の運用実態と展望: 全国の事例を俯瞰して, 土地総合研究, pp.1-10, 2011.
- 46) 渡辺綱男・佐々木真二郎・四戸秀和・下村彰男: わが国における国立公園の資源性とその取扱いの変遷に関する研究, ランドスケープ研究, pp.483-488, 75(5), 2012.
- 47) 小石原村: 小石原村誌, 2001.
- 48) 濱田琢司: 産地変容と「伝統」の自覚—福岡県小石原窯業と民芸運動との接触を事例に, 人文地理, 50(6), pp.606-621, 1998.
- 49) 野田正彰: 漂白される子供たち, 情報センター出版局, 1988.
- 50) 山下三平・坂本紘二・平野宗夫: 子供の目に映った河川環境とその評価に関する研究, 土木計画学研究・論文集, pp.271-278, 10, 1992.
- 51) 山下三平: 写真投影法による河川景観の構造に関する研究, 土木計画学研究・論文集, pp.335-342, 12, 1995.
- 52) 山下三平: 写真投影法による河川景観の時間的パースペクティブに関する研究, 環境システム研究, pp.567-574, 23, 1995.
- 53) 山下三平: 河川景観の構図と河川の規模との関係について, 土木計画学研究・論文集, pp.485-492, 13, 1996.
- 54) Yamashita, S.: Perception and evaluation of water in landscape: use of Photo-Projective Method to compare child and adult residents' perceptions of a Japanese river environment, *Landscape and Urban Planning*, pp. 3-17, 62(1), 2002.
- 55) 中村彰吾・小林昌毅・高橋邦夫・萩原良巳: 写真投影法による都市域河川の水辺デザイン情報抽出, ランドスケープ研究, pp.821-824, 64(5), 2001.
- 56) 久隆浩・鳴海邦碩: 子どもと地域空間の関わりを分析する手法としての写真投影法の試み, 日本都市計画学会学術研究論文集, pp.715-720, 27, 1992.

- 57) 上山輝・土肥博至: 写真投影法を用いた景観評価の基礎的構造に関する研究, 日本都市計画学会学術研究論文集, pp.595-600, 31, 1996.
- 58) 伊藤弘: 新宿御苑における好まれる景観と印象に残るものの関係, ランドスケープ研究, pp.463-466, 68(5), 2005.
- 59) 奥敬一・深町加津枝: 写真投影法による箕面国定公園利用者の風景認識に関する研究, ランドスケープ研究, pp.173-176, 58(5), 1995.
- 60) 奥敬一・深町加津枝: 林内トレイルにおいて体験された景観型と利用形態の関係に関する研究, ランドスケープ研究, pp.587-592, 63(5), 2000.
- 61) 栗原雅博・古谷勝則・油井正昭・多田充・赤坂信: 霧ヶ峰における自然観察路から見る二次草原の植生とその景観評価に関する研究, ランドスケープ研究, pp.735-740, 64(5), 2001.
- 62) 上田裕文・小野良平・下村彰男: 森林のイメージ形成に与える個人背景と既成イメージ, ランドスケープ研究, pp.685-688, 65(5), 2002.
- 63) 長瀬安弘・浅野智子: 写真投影法による森林ボランティアと大学生の森林における空間認知に関する研究, ランドスケープ研究, pp.615-618, 67(5), 2004.
- 64) 青野幸子・加我宏之・下村泰彦・増田昇: 泉北丘陵端部の農村地域における地形特性から捉えた居住者が好む風景の魅力の解明, ランドスケープ研究, pp.753-756, 68(5), 2005.
- 65) 松島洋介・奥敬一・深町加津枝・堀内美緒・森本幸裕: 琵琶湖西岸の里山地域における身元住民と移入住民の景観認識の比較, ランドスケープ研究, pp.741-746, 71(5), 2008. ...
本報告には, 移住住民や学生による被験者と異なる地元住民の意識, とりわけ「宗教構造物」への高い関心が示されていて興味深い.
- 66) 奥敬一・深町加津枝・三好岩生・堀内美緒: 大井川中流域の茶園卓越景観における日中の来訪者による景観認識比較, ランドスケープ研究, pp.657-660, 72(5), 2009.
- 67) Chenoweth, R.: Visitor Employed Photography: A Potential Tool for Landscape Architecture, *Landscape Jnl.*, pp.136-147, 3, 1984.